



◆乳がんが増えています

乳がんの患者数は1985年以降右肩上がりに増えています。他の部位のがん患者数と比較すると、増加の幅は特に大きくなっており、今や女性がかかるがんの中で最も多いものとなっています。特に40歳代から50歳代の女性の発症が多い特徴があります。

一方で日本人女性のがんによる死亡数を見てみると乳がんは4位となっています。発症数は多いものの、乳がんを克服した方が多くいることがわかるデータです。

◆乳がんの特徴

女性の乳房は、母乳を作り出す乳腺組織とそれを支える線維、脂肪組織などからなる間質で構成され、内部には血管やリンパ管、神

経が張りめぐらされています。

乳がんはこの乳腺に発生し、乳腺の一部分である乳管、小葉にとどまる非浸潤がんと、乳管の外側の間質に広がる浸潤がんに分類されます。間質には血管やリンパ管があるため、浸潤がんでは乳房を超えて骨、肺、肝臓などの臓器に転移する可能性があります。非浸潤がんの段階で適切な治療を受ければ治ることが見込まれ、浸潤がんも浸潤が小さいうちに治療を受ければほとんどの場合で治ることが期待されます。

◆乳がんのリスク因子

乳がんが発生する直接的な原因は未だ説明されていません。しかし、がん細胞が増殖していく過程には、女性ホルモンであるエストロゲンの分泌過剰が関わっていることが明らかになっています。

- ・初経年齢が早い、閉経年齢が遅い
- ・出産歴がない、少ない
- ・授乳歴がない、短い
- ・一親等に乳がんの家族歴がある
- ・乳腺疾患にかかったことがある

また、いくつかの研究の中で生活習慣上の問題が発症のリスク因

子になることを、日本乳癌学会が発表しています。

○乳がん発症との関連が確実な因子

肥満…特に閉経後の肥満は大きく関わるとされていますが、閉経前の女性でも発症リスクを高める可能性が指摘されています。

飲酒…飲酒量が多いほど発症リスクが高くなります。

大豆食品…大豆食品を積極的に摂ることは発症リスクを低くすることがわかっています。

○乳がん発症との関連がほぼ確実な因子

喫煙…肺がんだけでなく、乳がんについても発症リスクを高める可能性があります。乳がんは、定期的な運動が発症リスクを低くすることはほぼ確実です。閉経前の女性では運動と発症の関連はわかっています。

◆検診で早期発見を

乳房は月経周期により変化するホルモンの影響で時に硬いものを感じる場合がありますが、乳がんのしこりは、痛みはほとんどなく、こりこりと硬いことが特徴です。

ほか、皮膚のへこみや乳頭からの分泌などの症状がありますが、多くの早期乳がんは、無症状の女性に発見されます。症状がなくても乳がん検診を受けましょう。症状がある場合は、検診を待つことなく、乳腺外科または外科のある医療機関を受診してください。

〈健康福祉課保健グループ〉

町では20歳以上の女性は、年に一度乳がん検診を受けることができる体制をとっています。

【集団検診】

実施日…令和5年1月27日(金)
申込先…健康福祉課保健グループ
電話…34-3955

旭川がん検診センターへバスで送迎します。

【個別検診】

実施日…随時実施しています。
申込先…旭川がん検診センター
電話…0120-972-489
個人で旭川がん検診センターへ受診してください。

